

## 事後評価報告書(日中研究交流)

### 1. 研究課題名:「都市湿地環境の変遷の総合評価及び機能地区の分割に関する研究」

### 2. 研究代表者名:

#### 2-1. 日本側研究代表者:

公立大学法人 京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 教授 松村 和樹

#### 2-2. 中国側研究代表者:

北京師範大学 資源学院 教授 Li Jing

### 3. 総合評価:( B )

### 4. 事後評価結果

#### (1)研究成果の評価について

中国側の要請を受け日本側ではポンドモデルを開発し、琵琶湖西の湖、京都野田川などの具体的なフィールドでモデルの有効性を確認できたことは評価できる。中国側で湿地の価値を貨幣価値に換算して定量化する手法を開発し、北京周辺における湿地に適用し、湿地の価値を具体的に数値化できたことは、中国内での湿地評価における従来からの視点を変える可能性を持つ成果といえる。

#### (2)交流成果の評価について

参加する中国側研究者の範囲が広がっていったのは、中国側で本研究の意義が認められたものと評価できる。中国側では研究経験の少ない湿地の機能活用について、日本側からの助言を受けて研究を進めることができたことは評価できる。終了後の交流計画については具体性に欠けており、改善が望まれる。

#### (3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

日本側の研究と中国側の研究がそれぞれ独立に行われているようで、共同研究となっていない印象を受ける。本事業で交流することにより得られた情報の利用など相手国の現場を対象にした研究をもう少し加えても良かったのではないか。シンポジウムを共同で開催したほか、JST 主催のワークショップにおいてそれぞれの成果を発表したが、論文発表や共同での学会発表がないことは残念な結果であった。西の湖、阿蘇海での研究結果など、今後、ぜひ論文にまとめて公表を行っていただきたい。